

**Y07c 東京大学木曾観測所における天文教育活動 ～ サイエンスパートナーシッププログラムへの取り組み**

三戸洋之、西浦慎悟、宮田隆志、青木勉、征矢野隆夫、樽沢賢一、中田好一、田中由美子(東京大学天文センター木曾観測所)、吉井譲、田中培生(東京大学天文センター三鷹)

サイエンスパートナーシッププログラム(SPP)は、文部科学省が2002年度から開始した『理科大好きプラン・理科教育プログラム』のひとつである。東京大学木曾観測所は2002年11月から『星の教室』と題してこのプログラムに参加した。2002年度には長野県下の中学高校合わせて8校、のべ185名を対象におこなった。また、2003年度には同じく13校の受け入れを予定している。

実習内容は中学と高校で異なり、中学の場合は天文学の講義と天体観測、高校の場合はそれらに天文学の実習と発表がくわわる。高校生の天文学実習の最終目的は、ハッブルの法則をつかって宇宙の年齢をもとめることである。

今回の発表では、これらの実習のくわしい内容説明と、終了時にとったアンケートの結果をもとに、『星の教室』の教育効果について考察する。